



神亀山

令和3年3月2日 薩摩川内市立亀山小学校

か：かしこい子
め：めあてをもってがんばる子
や：やさしい子
ま：まごころを貫き通す子

前向きな言葉が夢を叶える

校長 中村 義浩

下の漢字は、鹿児島県出身で玉川学園の創立者、小原國芳先生が書かれた「夢」という書です。よく見ると、最後の「夕」の部分が一画多く「月」になっています。



小原先生はいつも「私の夢は一つ多い」と力強く言われ、この一画多い「夢」の字を書かれておられたそうです。これには、若者に対する「私に負けず、もっともっと多くの夢をもちなさい」というメッセージが込められているそうです。

人それぞれに様々な夢があると思います。自分だけのとおきおきの夢もあれば、誰かと同じような夢もあります。大きな夢もあれば、ささやかな夢もあるでしょう。近い夢もあれば、遠い夢もあるでしょう。どんな夢であっても、夢をもつことはとても大切なことです。なぜなら、夢をもつことで、人は明日や明後日のことだけでなく、もっと先の自分を想像し、自分の生き方を考えることができるからです。亀山小の子供たちも、様々な夢をもっていることでしょう。

「吐」という漢字があります。「吐く」(はく)と使います。この漢字は、口・十・一から成り立っているようにも見えます。人の口からは、「大丈夫・やればできる・頑張るぞ」といったプラス(+)思考の言葉が出ることもあれば、「無理・どうせできない・もうだめだ」といったマイナス(-)思考の言葉が出ることもあります。しかし、マイナス(-)の言葉は口から出さず、プラス(+)の言葉だけを出すようにすると(「吐」から「一」を取ると)「叶」(かなう)と言う漢字になるように見えます。まるで、前向きな言葉を発出する人ならば、自分の「夢」を「叶える」ことができる、と表しているかのようです。

令和2年度も、いよいよ最後の月を迎えました。子供たちは、今月24日の卒業式、25日の修了式で、今の学年を終え、それぞれ進学・進級していくこととなります。瞳輝く子供たちは、それぞれ夢や希望にあふれ、その前途は洋々です。次年度以降も亀山小の子供たちの「夢実現」に向けて、教職員一丸となって努めてまいりたいと思います。

そして、「一人で見るとはただの夢。みんなで見る夢は現実になる」という言葉を信じて、コロナ禍の厳しい状況の中、これから令和3年度を迎える準備をしたいと思います。



クラブ活動見学 1月28日・2月4日

亀山小では、4・5・6年生が興味・関心のあるクラブを選択して、木曜日の6校時、年11回クラブ活動を行っています。今年度のクラブは、運動系7、文化系7の14クラブあります。来年度、4年生になる現3年生が、2週に渡って活動の様子を見学し、来年度のクラブに入ろうかを考えました。本校では、掃除とクラブ活動が縦割り活動で、他学年の人とふれ合うよい機会となっています。クラブ活動を、日頃の学習や生活以外の運動や体験活動にも目を向け、豊かな学校生活を送るきっかけにしてほしいと思っています。



第2回学校保健委員会 2月16日

年度は、「心と体の健康づくり」を全体テーマとして取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症のため、本来、学期1回開催すべきところを、11月に第1回、そして今回が第2回と、実践期間が短い中でのまとめの会合となりました。今年度は、むし歯治療率が75%(未治療者40人)、日本スポーツ振興センター利用(けが等をした際の治療費補助請求)が年間27人(昨年37人)と、昨年度より向上しました。しかし、週明けの曜日に欠席・遅刻が多く、各家庭におかれましては、週休日の過ごし方を親子で話合っただけだと考えています。



北中校区学校運営協議会 2月17日

令和2年度最後となる第5回の学校運営協議会が、川内北中に小・中学校4校の学校運営協議会委員と校長が集まって行われました。今回は主に、今年度の成果と課題、次年度の学校経営案について説明・質疑応答を行い、本校の委員からは次のような意見が出されました。

- ・あいさつを含む基本的な生活習慣の定着は、まず家庭で努力することである。家庭内でのあいさつが学校や地域でのあいさつにつながる。
- ・地域との関わりは、例年行っている5年生の米づくり以外に、今年度は3年生のいもづくり、低学年の餅つき体験活動などができた。
- ・コロナ禍であっても、行事の中止を前提とせず、感染拡大防止対策をとって、どうにか形を変えて実施できないかと検討してほしい。
- ・子供にとって居心地のよい学びの場について、特別支援学級への入級指導を含め、保護者との教育相談を丁寧にしていく必要がある。

校内なわとび発表会 2月19日

本校では「一校一運動」の綱引きと縄跳びに1年間を通して取り組んできました。子供たちの半数以上が、朝登校して自主的に長縄や短縄に励む元気な姿は、学校に活気をもたらせてくれています。校内なわとび発表会は、例年ですと保護者の皆様にも参観のお知らせをしておりましたが、今年度は、校内だけでの実施として、2月中旬以降に各学年で実施しています。縄跳びの効用は数多くありますが、その中でも特に「調整力(バランス感覚)」は、身に付けさせたい力です。



(写真は6年生のなわとび発表会の様子)

金管バンド定期演奏会 2月21日

毎年恒例の定期演奏会を新型コロナウイルスの感染症対策を行いながら、国際交流センターで開催しました。金管バンドの子供たちにとって、コロナ禍において、例年出場してきた大会が中止や映像での参加になる中、久しぶりで本年度最後の観客を前にした演奏会となりました。この一年間、黙々と練習してきた「シンプルギフト・ファンタジー」「白雪姫と七人の小人たち」「Centuria センチュリア」などの曲を、約百人の観客に披露しました。また、今年度も教職員有志が、ダンスと歌を披露し、金管バンドの定期演奏会に華を添えました。早くコロナウイルスが収束し、以前のように盛大な演奏会が開催できる日が来ることを願うばかりです。



第2回薩摩川内元気塾 2月24日

2回目の薩摩川内元気塾は、亀山小・可愛小・育英小の4年生を対象に、SSプラザせんだいで実施しました。講師は、薩摩剣士隼人の原作者・総監督である外山雄大先生で、「薩摩剣士隼人 夢を見るチカラ」という演題で講演をいただきました。幼い頃から戦隊シリーズに憧れ、それに関わる仕事をしている楽しさやこれからの夢を熱く語っていただきました。講演の最後には薩摩剣士隼人も登場し、子供たちは大喜びでした。半成人式を迎えた子供たちには、将来の夢を見つめ直すよいきっかけにしてほしいです。



市青少年意見発表会

本年度は14日に録画審査で行われ、6年生の恵悠斗さんが市教育長賞を受賞しました。「見えない敵と闘う」という題で、コロナ禍の中、看護師として働くお母さんとの会話を中心に、コロナに打ち勝つ決意を発表しました。



新年度の学級編成 (3/1現在)

鹿児島県では、小学1・2年は30人学級、4年生以上は40人学級編成となっています(特別支援学級は原則8人編成)。現時点での本校新年度の通常学級の児童数・学級数は下表の予定です。()は特別支援学級の児童数別掲

	新1年	新2年	新3年	新4年	新5年	新6年
児童数	69(2)	84(4)	69(9)	100(5)	80(6)	83(6)
学級数	3	3	2	3	2	3

新3年と新5年は本年度より学級減の予定です。特に新5年生は1人足りない状況です。しかし、特別支援学級(こすもす学級)は1学級増の予定です。今後、児童数の動向には注視してまいりますので、転入・転出の情報がありましたら、担任を通して学校までご連絡ください。

